

図書室へ 行こう（２年）

<本稿の構成>

- I 目標
- II 学習材について
- III 学習活動計画
- IV 本時の学習（第２時）
- V 授業のふり返り・評価

I 目 標

- 1 書かれている事柄の順序や場面の様子などに気づきながら読むことができるようにするとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。

II 学習材について

この単元は、説明文『すみれと あり』『鳥の ちえ』と読書関連学習材『図書室へ 行こう』とで構成されている。

説明文の学習をとおして、「もっと、ありについて知りたい」などの思いをもつ子供は少なくないであろう。関連学習材では、その情報を得るために図書室へ行き、自分で本を探して読む活動へと発展する。

この関連学習材では、まず、図書室の中の様子を観察する活動が取り入れられている。それは、２年生の子供たちにとって、今後自分で目的にあった本を探すことができるようになるために、有効な経験となる。

さらに、図書室について気づいたことを話し合ったり本を紹介し合ったりして、読書の楽しさにひたることが期待される内容である。

III 学習活動計画（６時間）

時間	学習活動	留意点
第１時	○『すみれと あり』の学習から、もっと知りたくなったことを、どのようにして探すのか見当をつける。	●聴取・メディア検索なども認めながらも、いちばん身近である図書の利用へと誘う。
第２時	○図書室へ行き、仕組みや本の並び方について気づいたことを交流し、読みたい本を探す手がかりを知る。	●「図書室発見カード」を用意する。
第３～５時	○本の題名や種類をもとに、読みたい本を探し、自分にとって大切なところを見つけながら読む。	●その子の興味、理解力、速読力などに合わせて読書ができるように、十分時間をとる。
第６時	○知らせたいことをまとめ、友だちと伝え合う。 ・本を読んでわかったこと ・なぜ、その本を教えることにしたか ・その本がある場所	●読書をもとに作ったクイズを出したり、実際に案内して本の場所を知らせたりして、活発な交流を促す。

Ⅳ 本時の学習 (第2時)

(1)目標

○図書室へ行き、仕組みや本の並び方について気づいたことを交流し、読みたい本を探す手がかりを知る。

(2)参考図書

『カラスのくらし』(菅原光二 あかね書房)

『アリの世界』(栗林慧 あかね書房)

『アリ・バッタ・アメンボウのひみつ』(石井雅幸 汐文社)

『ありのごちそう』(高家博成 新日本出版社)

『れんげのおきやくさま』(七尾純 偕成社)

(3)展開例

学習活動	教師のかかわり
図書室の探検に出かけよう！ 1 「図書室発見カード」をもとに、図書室の仕組みや本の並び方などについて調べようとする意欲をもつ。 (先生)「まずは、先生から問題です。本を借りたいときや返したときは、どのマークの所へ行くといいのかな？ 図書室へ行って、探してきてね。」 (子供)「本を借りたり返したりする場所には☆のマークがあったよ。」「図書室には、教室にはないものもたくさんあった！」 (先生)「図書室には、ひみつがたくさんありそうだね。見つけたことをメモしたり絵にかいたりして、友達にも教えてあげよう。」 2 図書室で見つけたことを絵でかいて掲示し、見合ったり教え合ったりする。 3 発見したことをもとに、発表し合う。 (子供)「本棚の上に数字を書いた札があったよ。」「本の番号と本棚の数字が一緒だったよ。」「昆虫の本がたくさんある場所を見つけたよ。」「お知らせコーナーには、きまりや楽しく本を読む方法が書いてあるよ。」 「どうして、本に数字がついているのかな？」「本の仲間分けの目印になっているようだよ。」 4 題名や図書の番号を手がかりにして本のある場所を考えながら、学習をふり返る。 (先生)「この本は、迷子になってしまったよ。どこに戻すといいだろう？」 (子供)「本の番号と同じ棚に行くといいよ。」 (先生)「きまりを知っていると、読みたい本を見つけやすいね。今度は、自分で読みたい本を探して読んでみよう。」	●説明文に関連した内容の図書を確認しておく。 ●発見を楽しみながら、図書室の仕組みに気づくことができるようにする。 ●注目させたい場所にカードをはっておく。 ●掲示物の漢字に読み仮名をつけるなど、児童の活動がしやすいようにしておく。 ●カードに書いてある内容の近いところに掲示させるなどの支援をする。 ●首にかけるひもを付けた厚紙などを用意すると、記入に便利。 ●読みたい本が見つかったら、メモをとらせておき、次時に生かす。 ●図書室で、実際の図書や本棚を目にしながら、確認する場も設ける。 ●説明文と関連のある理科の内容の図書にすると効果的である。 ●次時の読書活動で生かすことができるように、具体的な手がかりを明らかにしながら話し合いを進める。

V 授業の振り返り・評価

＜どの子ども楽しく活動できる工夫を＞

今回の授業でもっとも配慮したのは、子供たちが楽しみながら図書室の中の様子や利用の仕方に気づくことができるようにすることである。

教師からのクイズの答えを図書室に探しに行ったり、見つけたことを絵でカードに書いて見せ合ったりしながら、どの子ども、意欲的に「図書室探検」に取り組んでいた。

授業後の子供たちの感想からも、「本の並び方のきまりを見つけれられて、うれしかったよ。」などと、学習のねらいにそった発見ができたことがうかがえる。

＜伝え合う場の工夫を＞

今回はカードを分類して掲示し、一人一人の活動の様子が視覚的にも明らかになるようにした。それを見ながら、子供たちどうして教え合うなどの交流も広がった。

また、より多くの気づきを促す手だてとして、「図書室の見取り図」を用意し、気づいたところに「シール」をはっていく活動もよいであろう。

読書後に、読書をもとに作ったクイズを出したり、本を紹介したりする場を設けたことで、読書の意欲をたかめることもできたと思われる。

＜授業の様子より＞



《発見！ 絵や文でカードに記入》



《図書室のひみつ、たくさんあったね》